

<別紙1>

第三者評価結果報告書

①第三者評価機関名

株式会社 学研データサービス

②施設・事業所情報

名称：	あかしあ園	種別：	障害者・児福祉サービス	
代表者氏名：	施設長 鈴木 謙之	定員（利用人数）：	40（40）名	
所在地：	213-0034 神奈川県川崎市高津区上作延938-1			
TEL：	044-854-6644	ホームページ：	http://www.ikuoufukushi.takatsu.kawasaki.jp/	
【施設・事業所の概要】				
開設年月日	1993年4月1日			
経営法人・設置主体（法人名等）：	社会福祉法人 育桜福祉会			
職員数	常勤職員：	19名	非常勤職員：	3名
専門職員	社会福祉士	2名		
	精神保健福祉士	1名		
	看護師	1名		
	栄養士	1名		
施設・設備の概要	居室の状況 1階フロア（活動スペース） トイレ （男1 女1 身障用トイレ1） 更衣室（男1 女1） 事務室、相談室、休憩室、静養室 2階フロア（活動スペース） トイレ（男1 女1）		施設の状況（設備等） 鉄筋コンクリート2階建て（築29年） 食堂（2階） 屋外プール（2階）	

③理念・基本方針

<理念>

～心の風景を自由に表現できるキャンパスの創造をめざして～

・育桜福祉会は、障害のある方が住み慣れた地域で安心して過ごせるよう、一人ひとりの思いや願いを大切に、その喜怒哀楽を地涌りに表現できる心豊かな生活の実現をめざして支援します。

<基本方針>

育桜福祉会は、福祉ニーズの変化に対応するとともに、関係法令等を遵守し、次の通り公共性・公益性及び信頼性の高い社会福祉法人をめざします。

1. 利用者の権利擁護と自立支援の推進

利用者の尊厳を守り、その人権を擁護するとともに、利用者の意思を尊重し、その人らしい生活が実現できるよう福祉サービスを提供します。

2. 安心・安全に配慮し、事故防止に努め、利用者が快適に利用できるよう環境整備を図り、安心・安全な福祉サービスを提供します。

3. 人材育成によるサービスの質の向上

職員の人材育成を進め、高い専門性を確保し、より良質な福祉サービスを提供します。

4. 地域との共生

共に支えあい、共に生きる社会の実現に向け、地域との交流・連携を深めるとともに、その一員として社会貢献を果たします。

5. 活力ある法人経営

経営基盤を強化し、構成で透明性のある活力あふれる法人経営をめざします。

④施設・事業所の特徴的な取組

あかしあ園には重度知的障害で、さらに自閉スペクトラム症(ASD)をあわせ持つ利用者が多く在籍しています。職員は「思い」に加えて、そういった状態にある利用者の支援を専門的に展開していけるよう「知識」や「技術」の向上を旨としています。そのために、事業所として自主的に自閉スペクトラム症の障害特性への理解を深めるための研修を企画・実施したり、専門研修修了者が中心となって個々の支援が実践的に展開されるよう個別の支援手順を作成するなどしています。それにより、特定の職員が特定の利用者の支援を行うのではなく、だれもがかかわっていくことができるようになってきています。それは利用者にとっても安心できるものであり、日中活動を安定的に行っていくうえで重要な要素となっています。

サービス管理責任者が中心となり利用者のケアマネジメントを展開しています。利用者が相談支援専門員とつながっていくための働きかけや、つなぎを行うだけでなく、面談機会には支援関係者にも声をかけ、ともに話し合い、アイデアを出し合い、利用者及び家族が安心できるよう心がけています。その取り組みを継続してきたこともあり、利用者40名中、相談支援専門員がついている利用者は37名、グループホームを利用している利用者が40名中23名となり、家族が抱え込まなくても地域の中で安心して暮らしを営んでいけるようになりました。

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	2022年6月13日	～	2023年1月6日
受審回数（前回の受審時期）	1	回（	2014 年度）

⑥総評

◇特長や今後期待される点

◆職員は、重度障害者への専門性を生かしたていねいな支援に努めています

強度行動障害の状態にある方や、強度行動障害の状態に陥りやすいとされる重度知的障害をあわせもつ自閉スペクトラム症の方を多く受け入れています。職員は、行動障害の状況を記録し、なぜその行動に至ったのか、本人が困っていることは何かを把握し、行動障害がおきてしまう背景の理解に努めています。障害特性に応じた支援手順書を整備し、個々の支援場面に応じた支援者の動きや留意すべきことを全職員で共有し、支援の統一性を図っています。また、自閉スペクトラム症特性アセスメントシートや冰山モデルシートを用いて利用者支援のニーズを把握し、専門性を生かした支援に努めています。重度障害者支援の地域ニーズの高まりの中で、当事業所のていねいな利用者支援の地域の理解が深まっています。

◆職員は、重度障害者への意思決定支援に力を入れています

職員は、障害程度にかかわらず、どのような支援があれば利用者が安心感のある中でさまざまなチャレンジができるかを考え支援しています。活動や参加の状況、周囲の環境など広い視点から本人を理解し、支援につなげています。職員は利用者が困っていることに対しどうすればできるのかをいっしょに考え、利用者の自立を妨げないよう心掛けています。利用者は経験していないことを選択することへの抵抗感があります。意思決定支援については可能な限り体験して知る機会を提供します。利用者の自治会では職員が重度障害者の表情などから本人の思いを代弁し利用者の言葉を補います。利用者は自分なりの表現で自分の意思を伝える経験を重ねています。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

第三者評価を実施する過程の中で、事業所の現状を客観的に見つめることができました。第三者評価機関からフィードバックされる内容だけでなく、管理者として自覚した充足点と不足点も踏まえ、総合的な取り組みにつなげていきたいと思えます。

⑧第三者評価結果

別紙2のとおり